

# Platform II Pause rest + restore

2023.4.28 fri – 5.7 sun [GWの10日間]  
BankART KAIKO 横浜市中区北仲通5-57-2 KITANAKA BRICK & WHITE 1F  
時間=13:00~21:00 (最終日は17:00まで) 料金=1日券1,000円/フリーパス3,000円

ゴールデンウィークの10日間、「新しい休日の過ごし方」を軸に12組のアーティストによるパフォーマンス、睡眠、食、団欒、会話など、他では味わえないオルタナティブな休日の過ごし方を提案、実践します。コロナ禍を経て、都市や娯楽、休暇の過ごし方に求められる意識も変化してきているように思います。AIなどの技術革新により「わかる」にいかにか最短でリーチするかを競う効率化社会の昨今だからこそ、「わからない」と向き合える現代アートを通し、ゆっくりと時間をかけて、他者と、あるいは自己と対話できる空間、「個と群れ」を意識しながらも鑑賞者が心身を落ち着かせ、時間をかけて楽しむ空間を出現させます。

小林晴夫 (blanClass ディレクター・アーティスト)

今年のゴールデンウィークにはなにをして過ごす?

昨年にもコロナ前にも、もう戻れないような気がするし...

「寝るか、醒めるか」それが知りたい。働き方に変化が促されている今、休日の利用方法も変化しているに違いない。副業に割り当てられるかもしれないし、将来を見据えて勉強を選択する人もいるかもしれない。もちろん娯楽や文化、旅行や観光、ショッピングにだっていそしみたい。いっそのこと全部忘れて、どっぷりと寝てしまいたい。でもOffしてもOffしても、別のスイッチをOnしてしまう。大型連休を前に気がつくのは「休日」の意味がいつの間にか変わっていること。願わくば、この企画を通して、これまでの「あたりまえ」を一時停止させてほしい。そしてアーティストたちが仕掛ける、やわらかな「思考の波」をそれぞれの頭のなかに注ぎ込んで欲しい。



撮影:金川晋吾

村田峰紀 (パフォーマンスアーティスト)

休むとはなにか、リセットすること。過去の自分へのご褒美、今後への備え、目標であると考えられます。

人生で一番遂行できている根源的行為は眠る事だと思います。人生を、終えた行為もまた眠ることになります。生きる為、身体を休めるために、回復をはかるために、人は寝ます。美味しい食事、規則正しい生活、家族やパートナーや友人との会話、音楽や映画の鑑賞などがより良い睡眠を与えます。またストレスが悪夢に繋がることもあります。また夢の中で特別な経験をし、人生観を変え覚醒したなども耳にします。夢と日常は双方に影響を与え合うものです。休日のプラットフォームでアーティストにより明日への活力がアップデートされることを望み、人生観をかえる衝撃で日常を見直す機会になってくれればと思います。



撮影:若林勇人

イベントスケジュール 2023年4月28日 [金] ~ 5月7日 [日] 13:00~21:00 (最終日5/7は17:00まで)

オープニングパーティー 4月28日 [金] 19:00~

■ = 展示 ■ = イベント・パフォーマンス

※詳細のスケジュールは、ウェブサイトをご覧ください。 →



	4/28(金)	4/29(土)	4/30(日)	5/1(月)	5/2(火)	5/3(水)	5/4(木)	5/5(金)	5/6(土)	5/7(日)
ミルク倉庫+ココナッツ	■	■ 13:00-21:00								
今村遼佑							■ 19:00-			
内田望美	■ 13:00-21:00	■ 13:00-21:00	■ 13:00-21:00	■ 13:00-21:00	■ 13:00-21:00	■ 13:00-21:00	■ 13:00-21:00	■ 13:00-21:00	■ 13:00-21:00	■ 13:00-17:00
うらあやか						■ 13:00-19:00-				
神村 恵					■ 14:00-16:00-18:00-	■ 14:00-16:00-18:00-	■ 14:00-16:00-18:00-			
佐藤朋子										
鈴木 淳						■ 15:00-18:00	■ 15:00-18:00			
関 真奈美				■ 13:00-21:00						
西原 尚								■ 13:00-21:00		
光岡幸一	■ 13:00-21:00									■ 13:00-17:00
松本力+VOQ									■ 18:00-	
山本 篤										
村田峰紀										※詳細はwebサイトにて

料金 1日券=1,000円/フリーパス=3,000円

[お問合せ] BankART1929

E-mail: info@bankart1929.com TEL:045-663-2812

[アクセス] BankART KAIKO

〒231-0003 横浜市中区北仲通5-57-2 KITANAKA BRICK & WHITE 1F

みなとみらい線「馬車道」駅、2a出口のエスカレーターをあがって、右手の赤煉瓦の建物KITANAKA BRICK & WHITE Northにお入りください。

主催: BankART 1929 助成: 令和5年度神奈川県マダガカル展開促進補助金



小林晴夫 & 村田峰紀 PRESENTS

# Platform II Pause rest + restore

休日のプラットフォーム「休養と回復」

今村遼佑 / 内田望美 / うらあやか / 神村 恵 / 佐藤朋子 / 鈴木 淳 / 関 真奈美 / 西原 尚 / 光岡幸一 / 松本力+VOQ / ミルク倉庫+ココナッツ / 山本 篤

Ryosuke IMAMURA

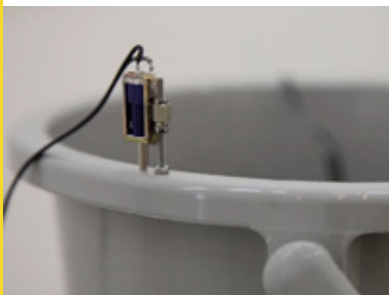


今村遼佑 (アーティスト)

「眠りにつく前に、」(今村遼佑+村田峰紀)

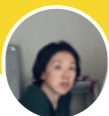
今村がこれまでインスタレーションや立体作品の中で扱ってきた、雨音や木漏れ日を想起させるようなささやかな音と光の要素を休養と回復のための素材として捉え、村田峰紀とともにパフォーマンスを行う。観客は、空間内に配置されたソファやベンチで寝そべりながら鑑賞できる。鑑賞せずに眠ってしまっても良い。

いまむらりょうすけ | 1982年生まれ、2007年京都市立芸術大学大学院彫刻専攻修了。日々過ごすなかでの記憶やふとした気づきを元に、ものごとの確かさと不確かさを探求するような作品を手がける。近年の展覧会に、「今村遼佑×光島貴之(感覚の果て)」(アトリエみつしま/京都、2023)、個展「永くて遠い、瞬きする間」(Finch Arts/京都、2021)、個展「雪は積もるか、消えるか」(アトラゾがいち、2018)など。



「雨の彫刻(バケツ)」2013

Megumi KAMIMURA



神村 恵 (振付家・ダンサー)

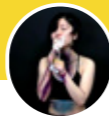
「新しい稽古」

鑑賞者に参加してもらい、普段何気なく行っている日常動作の稽古をします。歩く、立つ、止まる、運ぶ、など、基本的な動作の稽古を、前半は囲われたスペースで行い、後半はその動きを外側のスペースで行います。

かみむらめぐみ | 振付家・ダンサー。2004年より自身の作品の振付・上演を開始し、国内外で公演を行う。近年は、自分が環境を作ることと、自分がそれによって動かされることの関係に注目し、作品を発表している。高嶋晋一とのユニット「前後」、津田道子とのユニット「乳歯」など、美術家との活動も展開し、ダンスに収まらないパフォーマンス作品も制作している。近年の主な作品に、「彼女は30分前にはここにいた。#2」(国際芸術センター青森、2020)など。2022年、東京都国分寺市にて自身のスタジオ「ユングラ」の運営を開始。2021年度より、セゾンフェローII。http://kamimuramegumi.info



Nozomi UCHIDA



内田望美 (アーティスト)

「触れ得ぬと知りながら、

願わずにはいられなかった。」

あなたに触れたいと願っている。それは、身体をこえて「あなた」に触れようとする「接触」の試みである。私の肌があなたの痛みを忘れてしまうのに、あなたは痛みを伴って、それでも私をさみしくあたためる。たとえ届かないと思いつつも、「あなた」を求めてのばす手が、私(とあなた)を変えつつけてくれるかもしれない。

うちだのぞみ | 1989年富山生まれ前橋育ち。2021年金沢美術工芸大学博士後期課程修了。自他をかたちづくる肌や境界を揺動させる体温に着目し、「触れ得ぬ他者(≠わかり合えない他者)」との対話を試みる。主な展覧会に「3331 ART FAIR 2021」(3331 Arts Chiyoda、2021)、「ストレンジジャーによるしく」(金沢市各所、2021)、「前橋の美術2020」(アーツ前橋、2020)など。



Photo: Nozomi Sawamoto

Ayaka URA



うらあやか (アーティスト)

「アンアトラクティブダイアリー

／ワンデーコンタクト」

ワークショップ | 日記を振り返りみてみると、特に何もしなかったように記憶している日であっても何かを思い出していたり、連絡を取っていたり、誰かの考えを見聞きしようとして動いてそれに身勝手にリアクションを取ったり、また何もしなかったことを魅力的に書いてみようとして努力したりと、何かとバタバタと一日をいくつかの情報によって編み、文章の中にしまい込んでいます。なんでもないことを記述するというはなかなか難しいことです。このワークショップでは、「魅力のない」日記を制作することを目標に、一日間をデザインします。クリエイティブな生き方や文化産業へのコミットメントからこぼれる、「それ以外のこと」にフォーカスを向けます。

うらあやか | 1992年神奈川県生まれ。パフォーマンス、ワークショップ、ビデオなど様々なメディアを使って作品を制作。近年の個展に「貝の／化石の／跡を残して／化石の／離型／となった／身体」(金沢芸術村、2021)。グループ展に「国際芸術祭あいち2022」小山友也との共同プロジェクト(愛知県美術館、2022)。2019年から2022年までCSLAB 管理人。「female artists meeting」企画運営。



Atsushi SUZUKI



鈴木 淳 (アーティスト)

「On the Bed・

それでも、世界は、まわってる

・似木絵どうです?」

朝、目覚めた後のベッドの上のタオルケットを線描した絵画シリーズ「On the Bed」、回転する色とりどりのカツラの中の自分が映らない鏡「それでも、世界は、まわってる」の展示と共に、会話して訪れた人の木を描く「似木絵どうです?」って、どうです?

すずきあつし | 北九州市生まれ。熊本大学理学部生物学科卒業。身の回りにある既製品を用いたインスタレーションや、映像、写真、絵画、立体、パフォーマンス、テキストなど様々な手法を用いた表現活動をしている。普段の生活で見慣れた風景や、「もの」「こと」に対してユーモアやアイロニーを含め、場の特性や日常に潜む違和感を引き出し、異化している。個展に「ART FAIR EARTH」(art space tetra、2022)、「なにもない、ということもない」(福岡市美術館、2012)、「それでも、世界は、まわってる」(ギャラリーSOAP、2011)等。グループ展に「3331 ART FAIR 2019」(3331 Arts Chiyoda、2019)等。



Nao NISHIHARA



西原 尚 (アーティスト)

「まじめな機械(祈祷)

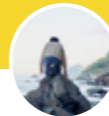
パフォーマンス(祈祷)」

「休養と回復」のパフォーマンスと展示。音は場を作り、人を包む。耳のみならず皮膚や髪など全身を通じて、体に響き込んでいく。そして体と気持ちに作用をもたらす。その時、場と体が空間と同一となり、人は自分と向き合う。治療は祈りであり、同時に呪いや魔術でもあった。「癒し」ではない。オーディエンスが積極的に休養と回復を掴み取る場を生み出したい。

にはらなお | 音を軸に、美術とパフォーマンスを行っている。美術や音楽を横断し、国内外の展覧会や音楽イベントに参加。「場所のリハビリ〜煤払い」(倉敷市沖宗、2023)、「エキシビジョン・カットティングス」(エルメス、2021)、「超級-軌跡 當代媒体と生協的総利」(台南市美術館、2020)、「心ある機械展 again」(BankART Station、2019)、BankART Life III「新・港村」(2011)、YPAM(2017、2019)、ソケリッサ公演(2022、2023)などに参加。



Koichi MITSUOKA



光岡幸一 (美術家)

「300分クッキング」

休養と回復という事で、今回は作品を展示したりはせず、来た人とお喋りでもしていようと思いましたが、しかし、これは作家のあるあるなんです、1日中会場にいるとその日の食事がだいぶ疎かになってしまい、それじゃあ本末転倒です。そこで自分の晩ご飯の準備をしながらやればいいのかと思いつきました。せっかくなので作った事のない時間のかかりそうなやつに挑戦してみようと思います。

みつおかこういち | 名前は、字がすべて左右対称になる様にと祖父がつけてくれて、読みは母が考えてくれた(ゆきかずになる可能性もあった)。宇多田ヒカル(PV)を作りたいという。ただその一心で美大を目指し、唯一受かった建築科に入学し、いろいろあって今は美術家を名乗っている。矢野顕子が歌うみたいに、ランジャタイが漫才をするみたいに、自分も何かをつかっていきたい。一番最初に縄文土器をつくった人はどんな人だったんだろうか?



Manami SEKI



関 真奈美 (アーティスト)

「休日のリスト(時の影)」

時計がまだなかった時代も含めて、さまざまな人の休日の行動メモを掲示します。5月1日13:00~21:00 協力者:山本聡志 誰かの1日を参考にすごしてもらい、何かしらの記録を残してもらいます。

せきまなみ | 現実を描くための技術を用いて、言語とイメージ、物理空間と多次元に代理表象された空間を往来するプロセスのなかで変形する事象を扱う。主な展覧会・イベントに、個展「敷地 | Site」(武蔵野美術大学 gFAL、2019)、「入れ物 # 観察」(blanClass、2019)、「PJB」(BankART Studio NYK、2017)、「(real) time と study tables」(space dike、2017)などがあがる。



撮影:宮川知宙

ミルク倉庫+



撮影:中川周

ココナッツ (アーティスト コレクティブ)

「Holy day off sugoroku」

たとえば、日常を切断するものとして「休日」と「ゲーム」があります。休日は「時間」で、ゲームは「ルール」で、それぞれの持つ「フレーム」によって、私たちを息苦しいオフィスや見飽きた自宅から切り離し、解放(フレームアウト)してくれます(誰もが一度は「休日にとっぷりゲーム」という「現実逃避ブース」の経験はあるでしょう)。さて今回は、この「ゲーム」が作品です。現代美術には「ゲームアート」とばれるメディア系ジャンルもありますが、本作品には双方向性も新技術もアバターもありません。区切られた卓上と限られた肉體で、限定的な賞杯に、メンバーが精一杯「ゲーム」に興じます。

みるくそうこ ぶらす ここなつ | 建築系技術をはじめ、電設技術、音楽、デザイン等の技能を有するメンバーが、自ら共同アトリエや、展示イベントスペース/住居である「milkyeast」(-2016)の改修等を行い運用。ものの潜在的機能の発見、道具と身体の間から着想する作品が特徴。主な展覧会に「国際芸術祭あいち2022 STILL ALIVE」(愛知県民ギャラリー、2022)、「タイムライン 時間に触れるためのいくつかの方法」(京都大学総合博物館、2019)など、受賞歴に「清流の国ぎふ芸術祭 Art Award IN THE CUBE 2017」大賞など。メンバーは、宮崎直孝、松本直樹、坂川弘太、篠崎英介、西浜琢磨、田中丸善一、瀧口博昭。http://milksouko.com



milkusouko (Milk Warehouse) + The Coconut

Chikara MATSUMOTO + VOQ



松本力 (映像・アニメーション作家) +

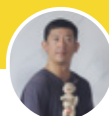
VOQ (音楽家)

「ライブパフォーマンス」

私はお2人のファンです。松本力さんは今年1月に火事に遭われてしまい、大変辛い想いをされたと思います。休日のプラットフォームで休養と回復が必要なのは彼かもしれません。心身と共にライブでの回復をはやく目撃したいです。それを願っているのは私だけではないはず。 (村田峰紀) まつもとちから+ボック | アニメーション作家 松本力と音楽家 VOQ による、絵と歌が拮抗するライブパフォーマンス。東京都現代美術館、森美術館でのライブ、アニメスパー バリコレクションへの招聘、細野晴臣氏からのレコメンドなど。松本力はNHK「美と出会う」オープニング、アート・イン・ザ・オフィス 2009 受賞、展覧会多数。VOQ は PROGRESSIVE ForM より 1st「YONA」2nd「VEILS」をリリース。



Atsushi YAMAMOTO



山本 篤 (アーティスト)

「休日・回復」

「休日」「休息」「回復」をテーマに制作した映像作品を展示します。「休む」というのはどういうことなのか? 「回復する」とはどういうことなのか? 人によって、その時々、その言葉を使う場面によって答えが異なると思いつつ、日常的に使う「OFF」について再考できるような作品を展示したいと思っています。

やまもとあつし | 1980年、東京都生まれ。多摩美術大学絵画学科油画専攻卒業。現代社会が抱える問題を切り口にしたフィクション作品からごく私的なドキュメンタリー、コン的な実験作品など多彩な映像作品を制作する。主な展覧会に、個展「MY HOME IS NOT YOUR HOME」(ShugoArts、2022)、「祈りのフォーム」(Art Center Ongoing、2020)、「MAMスクリーン007」(森美術館、2017-18)等。



撮影:Tokio studio